

温暖化防止むけ緑化推進

肥後産業G

長距離輸送や3度帯物流サ
ービスの肥後産業（肥後貴哉
社長、鹿児島市）を中核とす
る肥後産業グループは3月か
ら、環境保全対策として鹿児
島県頴娃町で「1000本桜
植樹活動」をスタートする。
創業50周年事業の一環。指宿
スカイライン・頴娃インター
チェンジ付近の用地（21畝）
に、約5年をかけてサクラの
木1千本を植え、広葉樹の育
成も手掛ける。緑化活動を通
じて二酸化炭素（CO₂）削
減に寄与し、従業員の憩いの
場も形成する。

地元森林組合の協力を得て
用地の整備、苗木の植え付け
や管理を行う。第1段階とし
て3月初旬までに「ヤマザクラ
」など200本を植樹。従
業員への感謝の気持ちを含め
て、サクラの木には1本ずつ
従業員の名プレートを取り
付けていく。

森林育成の作業に必要なへ



頴娃町の植樹用地では
万全の安全対策で森林
整備を推進

原料にリサイクルする。

「ヤマザクラ」「ソメイヨシノ」などを植樹し、サクラ以外の広葉樹のエリアや遊歩道を設けて景観に配慮。福利厚生の一環として従業員や家族が食事、散歩、レクリエーションできるスペースをつくり上げる。

肥後産業は1972年3月1日に創業。安全・安心と社会貢献を重視した経営で、SDGsが対象とする社会課題の解決に取り組んでいる。脱炭素に向けた取り組みは、6240枚の太陽光パネルを備えた肥後産業横川発電所における発電事業を展開しているほか、グループの各拠点でLED（発光ダイオード）照明、電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）の導入を推進している。（上田慎一）